
ありがとう

岡宮 未希菜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ありがとうございます

【Nコード】

N0786B

【作者名】

岡宮 未希菜

【あらすじ】

ある日鈴がお母さんとケンカして、その次の日お母さんが交通事故で亡くなってしまい後悔をした鈴が・・・！？

ずっと前私が5歳の頃

お母さんにひどい事を言った覚えがある・・・

鈴「私の事何にも知らないくせしてうるさい！」

お母さん「ごめんね・・・。」

鈴「分かったならほつといてヨ!!」

そう言っ、お母さんは悲しい顔をしていたのを覚えている・・・。
それから10年・・・。
私は15歳になった。

鈴「未美く、ごめんね・・・。今日は遊べなくなったんだ・・・。」

未美「私こそ無理言っちゃってごめんね。」

鈴「今度遊ぼうね。じゃく明日。バイバイ。」

この日は何となく遊ぶ気が無かった・・・。
家に居たいと思っていた・・・。

鈴「ただいま。」

お母さん「おかえり。今日も遊ぶの？」

鈴「今日は遊ばないヨ。」

お母さん「珍しいわね。雨でも降るのかしら・・・。」

鈴「失礼な事言わないでヨ。今日は疲れたの！」

お母さん「じゃー今日は、ゆっくりと勉強しなさいネ！。一樣受験生なんだから！！」

鈴「わかってますって。」

とか言っても、勉強する気は一切無い！

受験なんてヤダなあゝ・・・。

進路さえ決まってるのに・・・。

鈴「ハァゝ・・・。やっぱし遊んだ方が良かったかなゝ・・・。」

少し後悔したなあゝ・・・。

でも、遊び疲れたのはホントだしなあゝ。

鈴「勉強するか！！」

苦手な歴史からやるかあゝ・・・。

鈴「・・・。」

さっぱり分かんない。

鈴「ってか何で昔の事なんか勉強になきやいけないの！！」

過去は過去！今は今でしょ！！」

って、1人で言っても無駄か・・・。

お母さんに教わろうかなあゝ。

鈴「お母さん、ちょっと分かんない所あるんだケド来てくれないかな？」

お母さん「そろそろ来る頃だと思ってたわ。何処が分からないの？」

鈴「歴史なんだけど・・・。」
結局教えてもらって勉強をした。

結構お母さんは教えるのは上手かったなあ。
最近教わってなかったから忘れてた・・・。

鈴「未美おはよう！今日こそは遊ぼうね！」

未美「ごめんね。これから当分遊べないんだ・・・。」

鈴「何で？」

未美「受験生だから・・・。」

鈴「そうだよね・・・。じゃ～受験終わったらまた遊ぼうね！」

未美「うん！！有難う。」

やっぱり受験モードなんだなあ・・・。
ちよっぴり悲しい・・・。

まあ～仕方ないかあ～。

今日はお母さんの手伝いでもするか。

鈴「ただいま！」

お母さん「お帰り。今日も遊ばないの？」

鈴「受験生だからネ。今日はお母さんの手伝いするね！」

お母さん「有難う！助かるわ！」

姉「ただいまあゝ。」

鈴、お母さん「おかえり」

鈴「お姉ちゃん何処行ってたの？」

姉「お母さん言ってなかったけ？友達の家にお泊りだよ！」

お母さん「言うの忘れてたわ・・・。」

鈴「いいなあゝ・・・。そういうば、お父さんも今日帰って来るんだよね？」

（インターホン）「ピンポーン」

お父さん「ただいま。」

姉「噂をすればってこうゆう事言うんだね！」

お父さん「お父さんの噂したのか？」

鈴「べつにいゝ！」

お母さん「今日は家族集合ってかんじネ！」

鈴「おおゝ！！すごい！」

姉「うるさくなりそおゝ！」

お父さん「にぎやかかってかんじか？」

お母さん「まあとりあえずご飯にしましょう！」

鈴「今日は私も手伝ったよ！」

このひと時が私の楽しい時間だった。

鈴「ごちそうさま。」

お母さん「食べたなら、勉強しなさいネ！」

鈴「ええー！！ヤダ。」

お母さん「だったら進路ぐらい決めなさい！！！」

姉「そうだよ！」

お父さん「お母さんの言うとおりだぞ！！！」

鈴「何よ！！皆して……。自分のペースで決めてるから口出ししないですよ！！うるさい！！！」

お母さん「受験生なのよ！」

鈴「受験生、受験生って何にも分かってないくせして勉強、勉強うるさい！黙っててヨ！！！」

（ドア）「ボタン」

お父さん「鈴！！ドアは静かに閉めなさい！」

お母さん「鈴く．．．」

姉「お母さん、あんなのほっというて良いよ！」

お父さん「そうだぞ！」

お母さん「そうね．．．．．」

十年前と一緒だ．．．

お母さんの悲しい顔は見れてなかったけど、きっと．．．きっと．．．

とっても悲しい顔をしてたに違いない．．．

明日には謝ろう！

ちょうど明日はお母さんの誕生日だから、とっておきの
プレゼントを用意しておこう！！

鈴「寝よう．．．．」

鈴「ハァ．．．よく寝た！」

今日は謝るんだ！！

その前に学校だけど．．．

鈴「皆くおはよう！！勉強すすんでる？？」

美雪「全然．．．ってかやる気無いし！」

未美「私は．．．、苦手の所やってる．．．」

美雪、鈴「さっすがあー！！」

鈴「優等生はやることが違うね！」

美雪「言ってる！」

未美は優等生で、いつも期末では10位以内に入っているのだ！
私は60位以内だけど・・・。

先生「鈴さん居ますか？」

鈴「居ますけど・・・。そんなに急いでどうしたんですか？」

先生「鈴さんの・・・、鈴さんの・・・。」

鈴「・・・・・・。」

先生「鈴さんのお母さんが今、交通事故にあって死ぬ寸前なんです・
・・・・。」

鈴「・・・・・・。嘘ですよね？・・・。」

先生「信じたくない気持ちは分かりますが、ほんとうです・・・・。
早く

行ってあげて下さい！」

(ドア)「ボタン」

早くしないと！！

お母さん！！

お母さん！！・・・。

鈴「お母さんは何処ですか？・・・。」

医者「西宮和子さんのご親族の方ですか？」

鈴「はい！！お母さんは何処ですか！！何処なんですか？」

医者「すいません・・・やれる所までやってみたのですが・・・」

鈴「ダメだったんですか？・・・」

医者「すいません・・・」

鈴「死んじゃったってことですか？？」

医者「・・・・・・・・・・」

鈴「なんとか言ってください！！」

医者「・・・・・・・・・・すいません・・・・・・・・」

鈴「お母さん！（涙）今日誕生日じゃない！！生きててよ！！」

何でいっちゃったの？お母さん！！」

事故と聞いた時に頭が真っ白になったのに・・・

ダメだったと聞いて・・・・・・・・、もっと真っ白だよ・・・・・・・・

ごめんねも、お誕生日おめでどうも言っただけなのに・・・・・・・・

そんなのルール違反だよ・・・・・・・・、お母さん・・・・・・・・

姉「鈴！お母さんは？」

鈴「・・・・・・・・（涙）。」

姉「ダメだったの？鈴？」

鈴「うん……。」

お父さん「今の話ほんとか？」

医者「ほんとです……。」

姉「お母さん……（涙）」

お父さん「和子……！！」（涙）」

皆泣いている……。

もちろん私も……。

人が死ぬとこんなに涙が自然と出るもんだなあ……。
現実がこんなにも悲しいことに思えたのは初めてだ。

鈴「目を覚ましてよお母さん！！また怒ってよ！！また笑おうヨ……。」

お父さん「また上手い料理食べさせてくれヨ……。」

姉「また優しい言葉で勇樹ずけてヨ……。」

鈴、お父さん、姉「目を覚ましてえ……！！」

鈴「お願いだから……、目開けて……。」

この日の夜、後悔した……。

なんでよりによって昨日ケンカしたんだろう？

なんで明日何欲しい？とか聞かなかったんだろう？

なんで……、なんで……。

思うほど涙が止まらない……。

この日が過ぎても、お父さんや姉は一回も笑わなかった。

ある日・・・・・・・・。

鈴「なにこれ・・・？」

そこには、お母さんの日記があった。

鈴「私とケンカした日のことが書いてある・・・・。

「鈴・・・。ごめんね・・・。お母さん何にもわかって無かった。

鈴はゆっくり考えているのにね・・・。ごめんね。

あなたはとっても良い子だから考えてないってことは無いの
ね。

マイペースだから時間はかかるけど、ゆっくり、ゆっくり人生
のこと

考えてネ☆」お母さん・・・・。違う日のこともある・・・・。

ん・・・？？なんだこれ？

鈴と奈菜のいい所？」

鈴「鈴・優しい、人のために何かしようと努力する。

けど、すこしマイペースで人とは覚えが遅い。

なにこれ・・・（笑）覚えは早い方だよ・・・。

奈菜・優しい・人の気持ちを考えて行動する、

人なつっこい。けど、あきっぱくして習い事が続かない。

姉のはあってるなあ。」

こんなにも、私達のことを見てたんだ・・・。

ほんと言うとね、お母さんの子に生まれて良かったって思ってたんだよ・・・
もっと、もっと一緒に居たかったな・・・。

しかも、私良い子じゃないよ。母親にひどいこと言ってたじゃん・
。お母さんが謝ることじゃないのに・・・、私が・・・、私がいけない
のに・・・、
ごめんなさい・・・。ごめんなさい・・・。ごめんなさい。
生んでくれてありがとう！ちゃんと進路も決めるから・・・、
だからお母さん、安心して星になってね！！」

人は後悔したり、大切な誰かを

失ったら笑えなくなるんだね・・・。

でもね、でもね・・・。私ちゃんと笑うヨ！！

今までの恩返しと思って、りっぱな道を歩いていきたいな・・・。

母さんがいつか、天国の皆に自慢できるような大人でいたい！

だから・・・、だから・・・、

私頑張るネ！！

あれから、10年の月日がたった・・・。

私は医者になった。

勉強も頑張ってやっとなれた！！

鈴「この薬飲んでね！」

この子はもうすぐ風邪治るから良かったと思った。

なぜこの仕事を選んだかと言うと、

お母さんみたく交通事故にあった人達を助けたかったからだ・・・。

でも、もしあの日に戻れたならと考えると・・・、

朝起きた時に謝って、「誕生日だね」

とか言いたいって思ってたんだよ・・・。

でも、もう戻れることは出来ない。
過去は変えられないってわかってる。

だから………、

今を一生懸命生きることにした！！

後悔しない日々を暮らしてやる！！

そして今、生まれて良かった！！

今の人生も悪くないけど、お母さんがいたらもっと良かったなあ。
・。

たった一人しか居ない自分のお母さんに一言………。

ありがとう………。

後悔もあったし、ごめんねも言いたかった………。

けど、もっと、もっと言わなきゃいけないのは、

【ありがとう】なんだよね？？

もっと、もっと一緒に笑ったりしたかったけど、

怒られたりしたかったけど、でも………、

いつも私達の心にお母さんは【生きている】から………、

だから、あとは自分しだいなんだよね？

ほんとに………、【ありがとう】

生んでくれてありがとう

怒ってくれてありがとう

勇樹づけてくれてありがとう

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0786b/>

ありがとう

2011年1月25日02時45分発行